



2015年(平成27年)  
8月21日(金)  
(旧暦 7月8日) 友引

デリー東北新聞社  
〒031-8601 八戸市城下1丁目3-12  
☎0178-44-5111  
©デリー東北新聞社2015

# 「学校が全てじゃない」

高校とも通信制とも少し違う、新しい受け皿として子どもを支える八戸市の八戸あおば高等学院。2013年秋の開校以来、悩み、葛藤する多感な子たちに居場所を与えてきた。不登校になったわが子に対する親の苦悩は深い。しかし、あおば学院で生徒と接する指導者たちの思いは共通している。「学校が全てじゃない」 (玉川那津美)

## 指導者たちの思い

## もう一つの学校

八戸あおば高等学院から

形式張った学校のコンセプトがない、生徒一人一人に合わせた柔軟な環境をつくりたい。同じ思いの人々が集まり、あおば学院は始まった。今まで4人が卒業し、9月末にはさらに4人が卒業予定だ。

■既存の価値観に疑問 八戸あおば高等学院の日渡文雄校長は30年以上、高校の教員や管理職を務め、地域の子どもの見守り続けてきた。あおば学院では、自ら生徒に数学を教えている。社会は既存の高校の概念にとらわれがちだ。だが、日渡校長はそうした価値観に疑問を投げ掛ける。「全体教育について行けないから全てが終わらだと思っほしくない」。授業よりもっと大事なことがある、と強調する。

## 人間力 どう育てるか



不登校や発達障害の子どもについて話し合う日渡文雄校長(左)と斉藤善幸センター長

日渡校長は「子どもたちの前に道がなくても、振り返った時に、今までの経験やつくり上げたものを誇りに思えるよう、生徒と保護者の心に寄り添いたい」と話す。

■不登校が強みになる

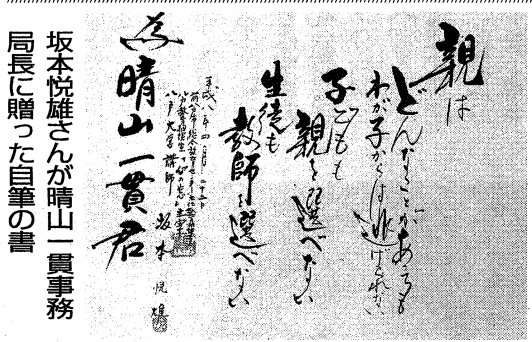
あおば学院が連携する広域通信制普通科の星稜国際高校(本拠校・北海道芦別市)は、「通える通信制」の先駆けとして1

999年に開校。現在、全国にキャンパスを設け、7千人を超える卒業生を輩出している。同校仙台学習センターは、それが後々の強みに「お断り」子どもを育てる

「親はどんなことがあってもわが子からは逃げられない。子どもも親を選べない。生徒も教師を選べない。約30年前から三八地区を中心に

### 不登校ケアの第一人者 坂本さん

「親はどんなことがあってもわが子からは逃げられない。子どもも親を選べない。生徒も教師を選べない。約30年前から三八地区を中心に



坂本悦雄さんが晴山一貫事務局長に贈った自筆の書

## 「必ず全員立ち直る」

不登校の子どもの親のケアをしてきた坂本悦雄さん(左)は、晴山事務局長が坂本さんに新郷村出身が、八戸あおば高等学院の晴山一貫事務局長に送った自筆の言葉だ。坂本さんは、八戸市内の高校校長を定年退職後、市総合教育センターの教育相談員を務めながら、1989年にいじめや不登校、非行などの教育相談室「心の窓」を市内の自宅に開設した。その後、親の会が発足し、青森市でも相談室を開くなど活動を広げてきた。96年には、不登校の子らが安らげる場所となる施設を新郷村に整備。相談は全国から寄せられ、必ず全員立ち直る」(玉川那津美)

子どもを育て

毎週金曜日に掲載